

# 道徳授業の「落とし穴」④

～「視聴覚教材におぼれる」～



土田 雄一

## 1. 「落とし穴」から授業を改善する

今回は視聴覚教材（資料）に焦点を当てる。視聴覚教材は、情報量も多く、子どもたちを引きつけやすい。文部科学省や各都道府県でも道徳用視聴覚教材を作成しているが、代表的なものは「NHK Eテレ」であろう。現在では、インターネットでも「ざわざわ森のがんこちゃん」「時々迷々」「道徳ドキュメント」等の番組が視聴できる。ホームページから、画像や指導案、ワークシートをダウンロードできる番組もある。また、従来15分の番組が新番組「ココロ部！」から10分となり、授業中の話し合いの時間が、多くとれるようになった。これらの魅力的な教材にも「落とし穴」がある。

## 2. 魅力的な視聴覚教材から「落とし穴」にはまる

### ⑥「視聴覚教材」に頼りすぎの授業。

一番、よく見受けられるのが、「あらすじ」をなぞりすぎの授業である。内容を確認しすぎるこのパターンは、「時間が足りない」「話し合いが深まらない」等の結果を招く。また、番組の感想をワークシートに書かせ、発表させて終わりという授業もあると聞く。感想を書かせた後にどう話し合い、深めていくかが肝要である。その他、考えさせたい場面で何度も番組をストップさせ、子どもたちの意欲・集中力を削ぐケースも見られる。

pattern① 番組の「あらすじ」をなぞりすぎる。

pattern② 番組の感想だけで終わる。

pattern③ 番組を何度も切りすぎる。

では、このような「落とし穴」にはまらないためにはどうしたらよいのだろうか。

## 3. 対策①「時間配分」は逆算の発想で

当然のことだが、副読本の読み物資料と同じ展開では「時間不足」になる。まずは時間配分をしよう。「中心発問」の後には15分くらい残したい。導入と番組視聴で約20分。ということは10分ほど

で中心発問に向かう計算になる。これでは丁寧にあらすじを確認する時間がないことがわかる。中心発問を明確にし、逆算して授業を構成するとよい。「導入を削る」「説明を写真活用で簡略化」「発問数を見直す」等の工夫で時間短縮ができる。

## 4. 対策②視聴前に「視点」をもたせる

番組を漫然と観るのではなく、視点をもたせて視聴させたい。「主人公はどうして夢を実現できたのか考えながら観よう」等、視点をもった上で番組を視聴させると、理解がしやすく、その後の展開も深まりやすい。

## 5. 対策③「ねらい」を明確にする

番組の感想だけで終わらせないためには、まず、教師がねらいを明確にもつことである。そして、そのねらいを意識しながら、子どもたちの感想に「問い返しの発問」をするとよい。「そう思ったのはどうしてかな」「もう少し詳しく話して」等、ねらいへの気づきや深まりがあるように発問することがポイントである。そして、それを「子どもたち全体に返すこと」「みんなはどう思う？」「似た感想の人は？」等、子どもたちに広げることで相互の学びが深まる。

## 6. 対策④子どもの「意識の流れ」を大切に

番組を途中で切って、発問するやり方がある。その後の情報（答え）がわからない状態で考えさせるという意図はわかるが、15分の番組を何度も切るのはどうか。「子どもたちが考え始める」と「ストップする」の繰り返しでは、集中力がとぎれ、意欲を削ぐ。子どもの意識の流れと中心発問を考えて、切る回数を検討したい。番組内容にもよるが、私はせいぜい1・2回が限度だと考える。

## 7. 読み物資料のよりよい活用法と同じ

上記の対策①～④は、読み物資料のよりよい活用法とも共通である。便利さにおぼれることなく、実態に応じて視聴覚教材を有効に活用し、授業をより充実させることが肝要である。